

西之島噴火 地形判読図

分類記号 分類

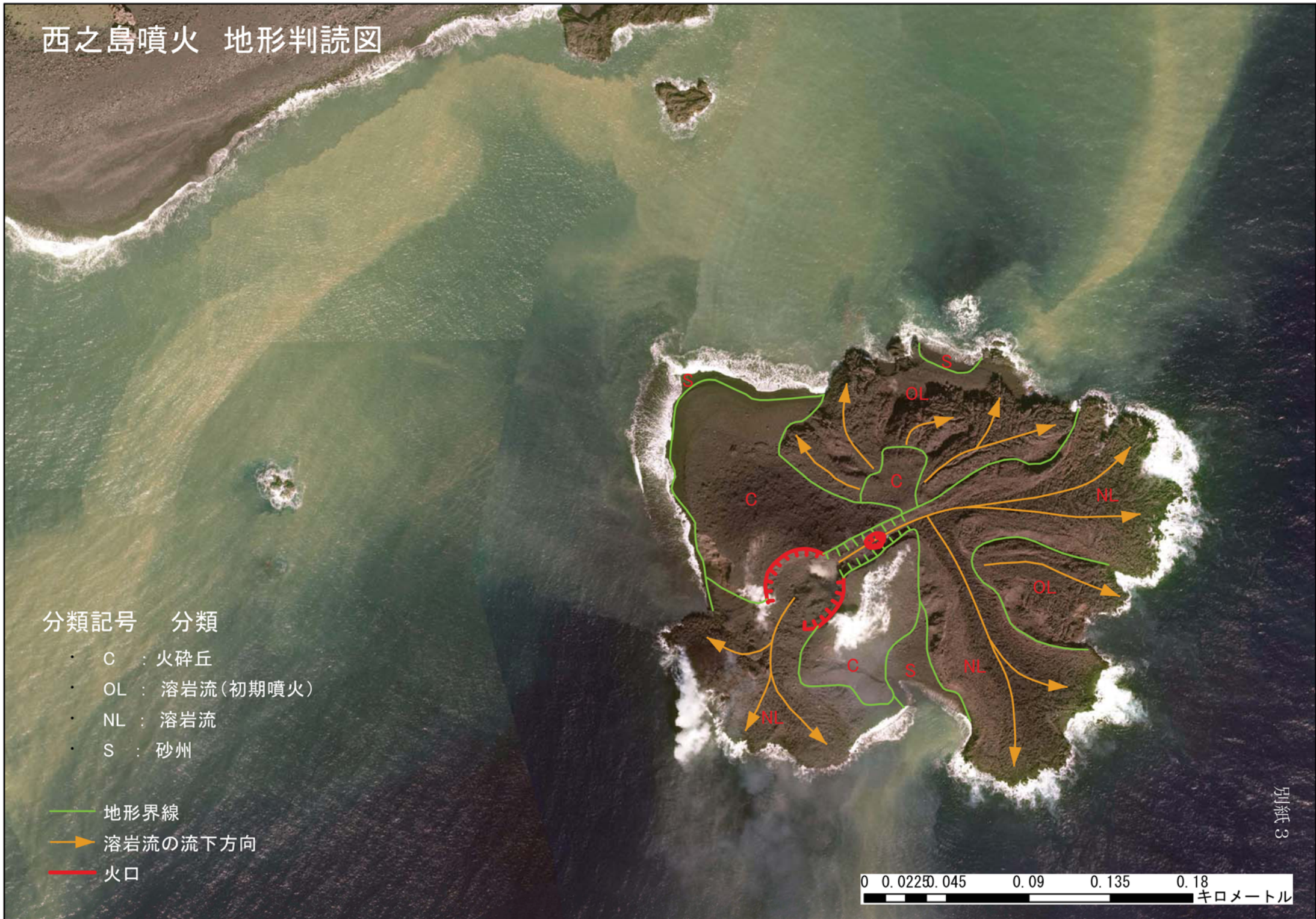
- C : 火砕丘
- OL : 溶岩流(初期噴火)
- NL : 溶岩流
- S : 砂州

— 地形界線

→ 溶岩流の流下方向

— 火口

0 0.0225 0.045 0.09 0.135 0.18
キロメートル



2013年西之島沖噴火による新島の形成について

2013年11月20日10時20分頃に西之島の東南東約500mの海上で確認された噴火は、同日16時17分頃には新島の形成が確認された。その後も新島の噴火は継続し、島の面積は拡大を続けた。

国土地理院は、12月4日に空中写真を撮影、写真判読を行い、地形判読図を作成した。地形判読図と諸機関撮影の映像を併せて以下のことが判読できた。

- ① 最も大きな火口は、新島の南西にある火口（以下「大火口」と仮称する。）である。大火口は噴火開始時からの火口であり、最も活発に噴出物を出している。新島形成当初は爆発的噴火を繰り返し北西～南東方向に長軸を有する比較的大きな火砕丘^{*}を形成した。
- ② 新島はこの火砕丘の形成から始まり、東の方に溶岩流を流出して面積を拡大していった。
- ③ 噴火口は複数存在する。写真判読により確認できたものは2カ所だが、古い溶岩（比較的初期に噴出した溶岩）の流下方向を解析すると、もう1カ所溶岩流の噴出中心があり、そこには低く小さな火砕丘が形成されている。
- ④ 大火口が形成した火砕丘は、新しい溶岩流（最近噴出した溶岩流）の噴出により南西部を、小火口の形成とそれに続く新しい溶岩流の流出により北東部の一部を失い、12月4日現在、南北に分断されている。大火口の火口底は最後に流出した溶岩によって埋積されている。
- ⑤ 海岸沿いの一部や溶岩流間の低所には、沿岸流により再移動した火山砕屑物等が砂州を形成している。
- ⑥ 空中写真で確認可能な溶岩流とそれ以外の地形の比率は、およそ7：3である。

※火砕丘：火口から噴出したもの（溶岩や砕屑物）が火口周辺に円錐状に堆積した地形